

2. AVALON Airshow 2017について

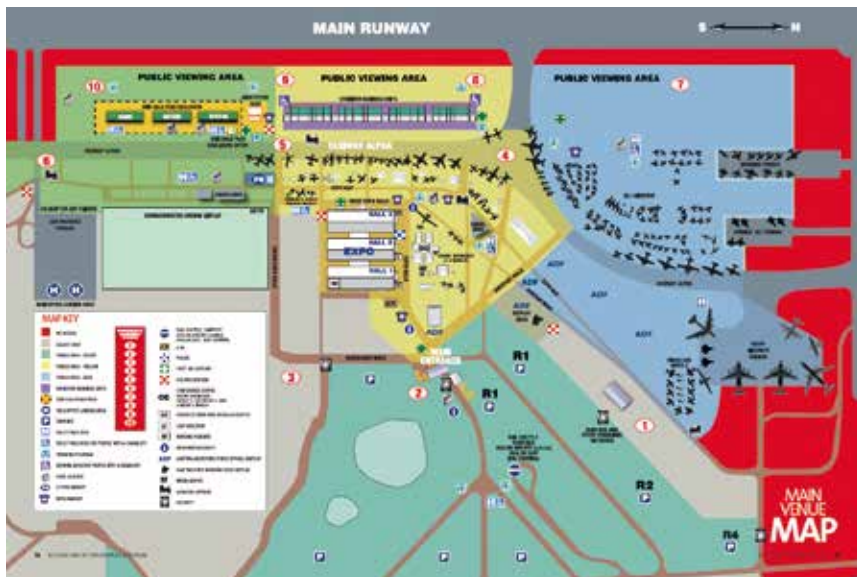
(1) 概要

前回の2015年と同様に、AVALON空港を使用して屋内展示、航空機の屋外展示、飛行展示の他、屋外には欧米各社のシャレーが設けられていた。また、屋外展示には、航空機以外にも防衛関係の陸上装備品の展示もされていた。

今回のAVALON Airshow 2017は、2017年2

月28日（火）～3月5日（日）までの6日間にわたり開催され、この内、2月28日（火）～3月3日（金）14：00までがTrade Dayであり、3月3日（金）14：00～3月5日（日）までがPublic Dayであった。

今回のAVALON Airshow 2017の来場者、出展者などに関する記録は、主催者発表によれば以下のとおり。



AVALON Airshow展示会場 全体レイアウト（エアショー資料より）

AVALON Airshow 2017概要

項目	内訳	数値
来場者	Trade Day（2/28～3/3）（3.5日間）	33,922人
	Public Day（3/3～3/5）（2.5日間）	176,742人
	計（全6日間）	210,664人
出展者	Australia及び海外25ヶ国	664社・団体
Delegation	Australia	79
	International	79
	計	158
屋外展示機	Military	108機
	Commercial	220機
	計	328機

注：Trade Dayは2月28日～3月3日14:00まで。
Public Dayは3月3日14:00から3月5日まで。

(2) 屋内展示

屋内展示場は、大きな3つの仮設テントにより構成されており、これらテント展示場の

面積は、1つが約4,200㎡（約40m×約105m）、テント間の接続部に、それぞれにカフェテリア（計2箇所）があり、1つが約300㎡



仮設テントによる展示場



U.S. Pavilion meeting point



Lockheed Martin社の展示



AIRBUS社の展示



Boeing社の展示



China Academy of Launch Vehicle Technologyの展示

(約10m×約30m)、合計で約13,200㎡の屋内展示場を使用した展示会となっていた。(この屋内展示スペースは、JA2016の屋内展示スペース(約32,000㎡)の約40%の規模に相当。)

屋内展示場における出展者としては、欧米の主要企業の他、中国のChina Academy of Launch Vehicle Technologyが宇宙機器を展示しており、規模はJA2016の40%であるものの、国防という特色を打ち出した比較的国際色豊かな展示会となっていたと思われる。

米国企業はJA2016と同様にU.S. Pavilionを構成し、海外企業の展示としては目立つ存在であった。

また、オーストラリアの各州政府が各々パビリオンを出展しており、その中に各州の企業が出展するといった、JA2016における地方自治体によるクラスター展示のような形での展示も目を引いた。

オーストラリア各州の展示においては、サウス・オーストラリア州、ヴィクトリア州など幾つかの州において州内の防衛・宇宙産業に特化した展示としており、特に次世代潜水艦が建造される予定の州都アデレードを擁するサウス・オーストラリア州は、面積を確保した、力を入れた展示としていた。



サウス・オーストラリア州の展示

今回の展示会には、日本からの出展企業は少なく、SJACの他iP-Solution/Zero C Seven社という企業のみが出展であった。

また、他の展示会関係者の展示としては、KAIA (Korea Aerospace Industries Association) が今年10月に開催予定のSeoul ADEX 2017のPRを目的としてナショナル・パビリオンに隣接してPR Boothを出展し、また、今年9月に北京にて開催予定のAviation Expo. China 2017の主催者であるChina Promotion Ltd. Beijing社がPRを目的とし出展していた。

(3) セミナー・シンポジウム

屋内展示場の外に、Airshow Conference Centerという、会議室が6室の仮設テント会議場を用い2月28日～3月2日の3日間、主にオーストラリア政府関係機関、団体による各種のカンファレンスが行われた。

また、このAirshow Conference Centerは、3月3日からDrone Showcaseとしてドローン専用の展示エリアに変更され、ドローン関係の展示、ゲージ内でのデモンストレーション飛行の場として使用された。

また、展示会場内にHARGRAVE LOUNGEというオーストラリア政府機関専用のコーナーがあり、ここでも関係者を限定したカンファレンス、セミナーが行われていた。

(4) 屋外機体展示

展示会場であるAVALON空港のエプロンなどを使用し、欧米各社の航空機を中心として、328機(主催者発表)の地上展示があった。この中には、8ヶ国から108機のmilitary aircraftが含まれており、61機がオーストラリア空軍、12機が米空軍からの機体であった。また、この中には訓練で立ち寄ったと思われる航空自衛隊のKC-767の姿も見られた。

屋外展示にはJA2016にても展示された

Lockheed Martin社のF-35 Mock-Upも展示されており、一般来場者の人気を集めていた。飛行展示では、F-16、FA-18、F-22、F-35など

の飛行展示が実施され、来場者の関心を集めていた。



航空自衛隊 “KC-767”



米空軍 “F-22”



オーストラリア空軍 “Global Hawk”



“F-35 Mock-Up”



オーストラリア陸軍 “MRH-90”



General Atomics社 “Predator”

3. 所見

(1) JA2016出展の海外企業および展示支援会社へのFollow-Upについて

今回は、昨年のJA2016出展の海外企業および展示支援会社に対して、次回以降のJAに向けたフォローアップを行うこと等を目的として参加した。

具体的には、海外企業の展示会担当者は、アジア・太平洋地区の担当者が同一である場合が多く、本展示会がJA2016開催後初のアジア・太平洋地区の大きな展示会であることを考慮し、海外企業の展示会担当者との一層のネットワーク構築を目論み、さらにAVALON 2017に会場している展示支援会社（Kallman Worldwide Inc.社他）との、次回JAに向けた情報交換なども目的とした。

今回、SJACは出展者として参加しJA2016結果報告他PR用ブースを1小間出展、場所がAVALON Airshow主催者の厚意により、U.S. Pavilionとオーストラリア政府機関の出展の近くという、PRには良い場所であったこともあり、JA2016出展の米国企業を中心に、展示担当者へのフォローアップができ、また、日本のJAという展示会について広く告知できたと考える。

特に、展示支援会社（Kallman Worldwide Inc.社、ECM Berlin社）との次回JAに向けた情報交換は有意義なものとなった。

また、SJACブースへは、来場された多数の日本企業及び防衛装備庁の方々の来訪に加え、展示会来賓として見えた杉山航空幕僚長の激励も頂き、感銘を受けた。

(2) 展示会について

2月28日（会期初日）のオープニング・セレモニーにおいて国防大臣、空軍参謀長などのスピーチがあるなど、国を挙げての展示会であった。

また、展示会としては、B to B meetingのような、バイヤーとサプライヤーによる商談会などによるビジネスの促進というよりは、カンファレンスなどを通じての政府機関主導による情報発信に力を入れているように感じられた。

しかし、展示会には各州政府による地元企業の展示、PRなどが熱心になされており、今後、これらの企業を対象とした、B to B的な要素も今後本展示会に加わってくるのではないかと感じられた。



日本企業の方のSJAC Booth来訪



豪空軍参謀長のスピーチ

(3) その他

今回のAVALON Airshowに参加し、オーストラリア各州政府の展示担当者と挨拶・面談することができた、今後のJAに向けての出展誘致の対象として期待できるのではないかと考えられる。

また、今回の展示会では航空関係以外の防衛装備品も展示されており、この中で、爆発物処理用プロテクターを装備した担当者という興味深いものがあったので、最後に紹介したい。



〔(一社) 日本航空宇宙工業会 国際航空宇宙展事務局 部長 長井 利幸〕